

第3節 白石構内(白石遺跡)の調査

教育学部附属山口幼稚園底新設、山口小学校スロープ新設に伴う立会調査

調査地区 白石構内

調査面積 約27.7m²

調査期間 平成16年1月26日、2月12日

調査担当 田畑直彦

調査結果 教育学部附属山口幼稚園園舎北側で底の新設工事、山口小学校北側の3ヶ所についてスロープ新設工事が計画され、立会調査を行った。

山口幼稚園底新設工事では、底の支柱部分であるA地点、B地点で60cm×52cmの範囲について調査を行った。両地点とも現地表下約10cmがマサの表土で、以下掘削深度である約40cmまで造成土であり、埋蔵文化財に支障はなかった。

山口小学校スロープ新設工事では、C～E地点について調査を行った。C地点は1.5m×7.8mの範囲について調査した。調査地の大部分が攪乱を受けていたが、東北隅で土層を確認した。現地表下約10cmが表土、約10～30cmが造成土、約30～50cmが淡黄色シルトの地山であった。D地点は1.5m×5.1mの範囲について調査した。現地表下約30cmが表土、約30～45cmが造成土、約45～60cmが水田耕土、約60～70cmが水田床土であった。E地点は東半部と西端部が攪乱を受けていた。現地表下約5cmが表土、約5～20cmが造成土、約20～35cmが水田床土であった。以下は、約35～50cmが灰色シルト、約50cm以下が灰色粗砂であった。両層から遺物は出土しなかったが、約8.5m南側の地点で遺物包含層が確認されていることから、これに関連する遺物包含層である可能性がある。



図10 調査区位置図



写真4 E地点土層断面(南から)